

私は、のだみらいを代表して、発議第1号志賀原発と柏崎刈羽原発の廃炉を求める意見書について反対の立場で討論します。

確かに、最大震度7を観測した能登地方を襲った地震により、北陸変電所の志賀原子力発電所は、変圧器が壊れ、外部電気が一部使えなくなり、冷却のための油が漏れ出したほか、使用済み燃料を冷やす貯蔵プールの水も飛散し、一時的に冷却が停止する等のトラブルが発生しましたが、北陸電力によれば、変圧器が破損して外部電源の一部が使えなくなったのは事実だが、災害対応は外部電源が途絶することを前提にしており、非常用電源や付近のダムからの取水等の多重防護を進めており、安全性は図られているとのこと。

次に、新潟県の柏崎刈羽原子力発電所においても、使用済み核燃料プールの水があふれるトラブルが発生したが、外部への影響はないとのこと。また、3月8日刈羽村の議会では、地元の経済団体から提出された原発の早期の再稼働を求める請願が賛成多数で採択され、その後柏崎市議会においても採択されたことから、住民の代表としての議会において意思が示されている以上、その判断を尊重すべきと考えます。

よって、このような現状を鑑みて、まずは、原子力発電所のある、今後の各自治体の原子力災害避難計画、複合災害等の安全対策は、どのように講じられるのか、そして、地元住民の意向を尊重することも重要と考え、慎重に見守っていくべきという見解から、この意見書に反対といたします。